

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わいわいはうす			
○保護者評価実施期間	R7年 8月 1日 ～ R7年 9月 12日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名 (世帯数：22)	(回答者数)	19名 (86%)
○従業者評価実施期間	R7年 8月 1日 ～ R7年 8月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名 (100%)
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 10月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士の資格を持った職員や長く経験のある職員も多く勤務することで、専門的な知識を活かした療育を提供することができています。あい・さかいサポートリーダー及び強度行動障害者養成研修（基礎研修）修了者も在籍しています。	児発管、保育士や児童指導員など、各分野の研修に参加するとともに社内研修を実施し、専門性を高めています。	現在、男性スタッフが少ないため、支援の充実を図るため、男性スタッフの雇用を獲得していきます。
2	児童発達支援と放課後等デイサービス、両方のサービスを一つの事業所で行っています。今年度、事業所を新たに開所したことで、発達段階に沿って療育を行うことができています。当事業所では、子どもたちが日常生活の中で必要な力を身に付け、将来の自立につなげていけるよう、生活基盤の療育（ADL）を大切にしています。	子ども一人ひとりの発達段階や特性を丁寧に把握し、個別の目標設定を行うよう努めています。日常生活動作の習得に加え、見通しを持って行動できるよう支援内容を構造化し、安心して活動に取り組める環境づくりを意識しています。また、成功体験を重ねることで自己肯定感を高め、次のステップである社会的自立へとつながるよう支援を行っています。	支援の質の向上を目指し、職員間の共有や研修を充実させるとともに、家庭や学校との連携を深めていきます。一人ひとりに合わせた支援内容を継続的に見直し、より実践的な生活基盤の療育を推進していきます。
3	保護者との連携やコミュニケーションが充実しています。	日々の子どもの様子を、送迎時に保護者に伝えたり、モニタリング時や来所時に情報共有を行うことで、職員と保護者との信頼関係を深めています。SNS（Instagram、LINE等）を活用してその日の様子を写真や動画で発信しています。 【※保護者のみの閲覧しかできないよう配慮しています】	子どもたちの様子を見学したりちょっとしたことで相談に来ていただきやすいよう環境や雰囲気作りに取り組んでいます。子どもたちの様子やかかわりをいつでも生で見てもらい、情報共有することで安心して利用していただけるように努めています。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の設備上、バリアフリー構造にはなっていないため、車いすが必要な方の受け入れが出来ません。また、2階建ての造りで、階段の上り下りが必要なため、全介助が必要な方の受け入れは現実的に難しいです。	建物は2階建て構造になっていて、手すりは現在、階段のみです。玄関等段差はありますが、スロープがありません。	建物の構造上、オールフラットにすることは不可能なので、必要に応じて、できる限りで手すりやスロープの設置を検討していきます。
2	看護師・PT・OT・ST等、医療系スタッフが勤務していません。そのため、医療的ケアが必要なお子様の受け入れはできません。	医療系スタッフが在籍していないため。	今後、必要になったときには、医療系スタッフの雇用を検討します。
3	現在は女性スタッフは多く在籍していますが、男性スタッフは1名（非常勤）と少ないです。	男性スタッフの求人の応募が少ないこと。	支援の充実を図るため、男性スタッフの雇用を積極的に獲得していけるよう努めます。